

平成28年度農村振興・環境保全優良活動 知事賞受賞団体の紹介

かなやま

金山農地水環境保全委員会（朝日町）

多面的機能支払支援事業の取組面積が朝日町最大であり、農家・非農家問わず地域ぐるみで、7月初旬の一斉草刈や、高畦での防草シート張りを行うこと等により、畦畔管理の効率化・軽減化を進めている。

ほ場整備後40年以上経過し、用排水路の傷みが激しい中、新工法でのコーキングを行うなど、新しいことにも前向きに挑戦している。

児童会や老人会といった地域で活動する各種団体の協力を得て、地域の美化活動を行っている。



高畦での防草シート張り

やつお

八尾地域広域協定運営委員会（富山市）

個別の活動組織での取組みから、平成26年度に八尾地域の全活動組織を一本化した広域組織としたことから、多面的機能支払制度の事務効率化などが可能になった。

集落間を超えた施設の維持管理が一体的にされるようになり、通水の安定や合理的な水利用につながり、営農の効率化が実現されている。

水路や農道法面への植栽等の農村環境保全活動や、稲刈体験、しめ縄づくりなどの農村文化の伝承を図る活動を小学校区単位で実施している。



小学生による稲刈体験

おおつぼ

大坪地区環境保全推進委員会（砺波市）

毎年、活動の標語を活動組織構成員（地域の子供達も含む）から募集して、年間の取組テーマを決め、構成員の意識向上を図りながら、地域ぐるみでの活動を実施している。

畦塗りや古くなった排水槽の交換、大雨が予想されるときに排水調整板を高くするなど、田んぼの貯水機能増進により、災害発生の抑制を図っている。

子供たちに昔の農作業を体験してもらった「田んぼの学校」を開催し、文化の伝承や農村コミュニケーションの強化に努めている。



景觀作物の定植活動

やまだかまくら

山田鎌倉集落協定（富山市）

中山間地域の条件不利地である当地では、水稻栽培において、従来から草刈作業、防除作業の共同化を図っている。また、水稻単一経営からの転換として、山田地域の特産物である啓翁桜・ソバの作付も行っている。更には、学生ボランティアの協力を得ながら、地域特産物とすべくマコモタケの生産を始め、集落住民と学生との交流を図っている。

特産品開発として、加工グループと連携し、マコモタケの昆布じめの商品化やしめ飾りの製作、料理講習会などに取り組み、集落の活性化に努めている。



マコモタケ栽培ほ場内での草取り

この

小野集落協定（高岡市）

農地・水路・農道等の定期的な点検・草刈作業等に取り組んでいるほか、保全管理地や周辺林地の草刈を行い、多面的機能の増進に努めている。

集落の農地は、ほ場整備が行われておらず、作業効率が悪いために耕作放棄が懸念されることから、地域の特産であるジャガイモのオーナー制度を取り入れ、都市住民との交流による活性化を図っている。

また、粘質系の土壌を活かして自然薯の栽培にも取り組み、地域の収穫祭等で販売するなど地域の特色を生かした活動に取り組んでいる。



ジャガイモの掘り取り

はやかわ

特定非営利活動法人 速川活性化協議会（氷見市）

耕作放棄地等の田畑を活用し、地域一丸となって、サツマイモの苗植え、管理、収穫、さらに自分たちで開発した独自の乾燥方法で干し芋に加工したり、焼酎製造など6次産業化にも取り組んでいる。

インターンシップの大学生や地域おこし協力隊を受入れ、菓細工の体験教室や里山料理の研修を行うなど、地域住民と都市住民との交流、地域文化の継承を通じ、地域の賑わいを創出する活動を行っている。

移住・定住者の受け皿づくりとして空き家を改修・整備し、住民の増加を図っている。



サツマイモの苗植え作業